学校法人東京神学大学 2024 年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１．設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2024 年度の入学定員は学部 5 名、別途 3 年編入学定員 20 名で、学部総定員は 60 名、大学院博士課程前期課程入学定員は聖書神学専攻 10 名、組織神学専攻 15 名、博士課程後期課程入学定員は各専攻 2 名です。2024 年度の学生数は学部 37 名、大学院 38 名、計 75 名（2024 年 5 月 1 日現在)。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「東京神学大学は日本基督教団の教職養成の責を担うものであるが、それとともに合同教会としての教団の世界教会的理想に従い、より広く日本の諸教会、アジアの諸教会の教職養成に貢献し、かくして日本の宣教と世界教会の宣教とに奉仕しようとするものである。」

2024 年度学生数

2024 年 5 月 1 日現在

区分	学　年	学生数	内訳		収容定員	充足率
		合　計	男	女		
学部	1 年	1	0	1	5	20.0%
	2 年	3	2	1	5	60.0%
	3 年	24	15	9	25	96.0%
	4 年	9	6	3	25	36.0%
	合計	**37**	**23**	**14**	**60**	**61.7%**
大学院	前期課程 1 年	13	9	4	25	52.0%
	前期課程 2 年	13	8	5	30	43.3%
	小計	**26**	**17**	**9**	**55**	**47.3%**
	後期課程 1 年	1	1	0	4	25.0%
	後期課程 2 年	1	0	1	4	25.0%
	後期課程 3 年	10	8	2	4	250.0%
	小計	**12**	**9**	**3**	**12**	**100.0%**
	合計	**38**	**26**	**12**	**67**	**56.7%**
総合計		**75**	**49**	**26**	**127**	**59.1%**

２．東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

1859（安政 06）年　プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
1872（明治 05）年　横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
1873（明治 06）年　宣教師のＳ・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
1877（明治 10）年　「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
1904（明治 37）年　植村正久牧師により「東京神学社」設立。
1930（昭和 05）年　本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
1941（昭和 16）年　プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
1943（昭和 18）年　教派ごとに分かれていた 15 の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の 3 校に統合される。
1944（昭和 19）年　「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
1945（昭和 20）年　「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
1949（昭和 24）年　新制度による大学として「東京神学大学」となる。
1951（昭和 26）年　私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
1966（昭和 41）年　三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。
1968（昭和 43）年　本館東部部分を増築。
1986（昭和 61）年　本館から独立させて図書館棟を建設。
2011（平成 23）年　韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。
2020（令和 2）年　教員住宅を更新。
2021（令和 3）年　学生寮を更新。

３．役員・教職員の概要（2025 年 3 月 31 日現在）

(1) 理事（18 名）

理事長	藤掛　順一	理　事	嶋田　順好
学長理事	神代真砂実	〃	松井　　睦
財務理事	髙橋　　潤	〃	河田　直子
常務理事	黒沼　　健	〃	REEDY, David
〃	安藤　良一	〃	小山　美弥
〃	東野　尚志	〃	山畑　　謙
〃	渡部　　満	〃	古屋　治雄
〃	小林　克彦	〃	岡村　　恒
理　事	長山　信夫	〃	黒米　理恵

(2) 監事（2 名）

監　事	市川　一宏
〃	齋藤　　孝

(3) **評議員（37名）**

評議員	岡村　恒	評議員	藤井清邦
〃	田中かおる	〃	山﨑みどり
〃	服部　修	〃	黒沼　健
〃	武田真治	〃	小泉　健
〃	真壁　巖	〃	須田　拓
〃	佐治範子	〃	神代真砂実
〃	郷田　敬	〃	井ノ川　勝
〃	望月　修	〃	山畑　謙
〃	安藤良一	〃	小堀康彦
〃	小林克彦	〃	古屋治雄
〃	岩田昌路	〃	黒米理恵
〃	福島純夫	〃	渡邊義彦
〃	松井　睦	〃	小山美弥
〃	A.キスト岡崎	〃	REEDY, David
〃	高橋　潤	〃	嶋田順好
〃	東野尚志	〃	渡部　満
〃	河田直子	〃	土橋正文
〃	長山信夫	〃	戸塚智之
〃	瀬谷　寛		

(4) **教育職員（14名）**

学長	神代真砂実	准教授	本城仰太
教授	中野　実	特任教授	朴　憲郁
〃	W.ジャンセン	〃	芳賀　力
〃	小泉　健	特任准教授	河野克也
〃	須田　拓	特任常勤講師	矢田洋子
〃	長山　道	〃	宮嵜　薫
〃	田中　光	助教	飯田　仰

(5) **事務職員（13名）**

Ⅱ　事業の概要

2024 年度は、4 月に久しぶりに 19 名という多くの学部入学者を与えられ、歩み始めたものの、2025 年度入試においては再び志願者数が大きく減少し、これからの伝道のためにさらなる献身の呼びかけが急務であることを改めて思わせられた一年となった。ここに、本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を報告する。

１．教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学は、寄附行為前文、また学則に規定されているように、伝道献身者の養成を目的とし、そのための教育体制を整えている。しかし、2017 年度より神学研修志望枠を設けて、信徒として教会やキリスト教学校、キリスト教施設等を支えようとする方々にも学部の学びを開放し、そのような広義の伝道者の養成も使命と捉えるようになった。2024 年度には、この枠で 3 名が入学した。神学研修志望枠での入学者には、従来の伝道献身者枠への志望の変更が認められている。2024 年度には、2 名の志望変更志願者があった。

また、伝道献身者を育成するという一つの目的の下で、学部と大学院それぞれの教育の果たすべき役割を明確にすべく、それぞれの学則に、学部と大学院それぞれの目的を記載すると共に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの３つのポリシーを公表している。学部のディプロマポリシーについては、神学研修志望枠の学生にも当てはまる表現となるように 2024 年度より改定した。また、学修成果の多様な測定指標の策定が求められる中にあって、アセスメントポリシーを策定しているが、年度末には、昨年度に引き続き、アセスメントポリシーに基づく機関レベル及び教育課程レベルの検証を教授会において行った。

学部の入学者減少に伴い、博士課程前期課程の学生数が減少していることから、収容定員を適正化するため、2024 年度より聖書神学専攻の入学定員を 15 名から 10 名に削減した。また、既に日本基督教団以外の教派の牧師である者が更なる学びのために博士課程前期課程への入学を志望するケースが見られることから、教会に牧師として仕えながら博士課程前期課程の学びをすることができるよう、博士課程前期課程にも長期履修制度を導入する準備が進められている。

博士課程後期課程については生産性の向上が課題であり、様々な改革を進めてきた。2021 年度、2022 年度、2024 年度に各 1 名ずつ論文博士による学位の授与を行ったが、課程博士については 2018 年度に通算 3 例目を授与して以来、授与者がない状態が続いている。牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながらの研究となるため、長期履修制度等の活用による生産性の向上が期待されるが、さらに十分な研究時間を確保して学び続けることができるよう、制度改革や支援の拡充が必要である。従来、博士課程後期課程在籍中の研究と指導の成果として論文を書き上げながらも、わずかに在籍可能年限を超えたために課程博士ではなく論文博士となったケースについて課程博士を授与できるようにするために、2024 年度より、博士論文以外の全ての修了要件を満たした場合に研究指導認定を行い、その認定を受けて 1 学期以上の在籍可能期間を残して退学、3 年以内（長期履修制度利用の場合は 1 年以内）に再入学して論文を提出することのできる制度改革を行った。

２．教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成（FD）

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で,授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示すると共に、前期については、アンケート結果に基づく授業改善計画の提出を専任教員に求めた。

また、FD 活動の一環として、また、本学の研究倫理規程の内容を教授会メンバー全員で確認し、引き続き遵守することを申し合わせると共に、2025 年 3 月 12 日に大学院研究科の FD として、特任教員を含む全教員が集まって、修士論文の評価基準について話し合う形で研修を行った。

b. 大学院博士課程後期課程研究発表会

2024 年 6 月 25 日の一般時間に、大学院博士課程後期課程研究発表会を開催した。本年度は、博士課程後期課程在学者で、新たに研究発表できる者がおらず、博士課程後期課程への在籍を経て教員として任用された矢田洋子氏（旧約聖書神学）と飯田仰氏（歴史神学）がそれぞれ研究発表を行った。

c. 日本伝道研究所主催講演会

日本伝道研究所の活動を活発化させるべく、日本伝道研究所主催の講演会を年 1 回開催している。2024 年度は 12 月 3 日に山口陽一先生（東京基督教大学特任教授）により、「日本における伝道の根本課題――戦時下の『日本的キリスト教』を読んで考えたこと」をテーマとする講演が行われた。

d. 教員・教育組織

2023 年度末を以て小友聡教授が定年退職したことから、2024 年度に宮嵜薫特任常勤講師（旧約聖書神学）が任用され、これにより、教育職員の定数 14 名が確保された。宮嵜特任常勤講師は 2023 年度中に博士学位論文を提出されたが、学位授与前であるため、2022 年度に制定した「東京神学大学特任専任教員の任用に関する内規」に基づいて特任常勤講師として任用されたものである。

また、2024 年度末を以て朴憲郁特任教授（実践神学）が定年退職することから、2025 年度から新約部門に 1 名を任用することを目指し、交渉を進めた。また、宮嵜薫特任常勤講師に博士学位が授与されたことから、2025 年度より常勤講師に任用すべく手続きが取られた。

３．学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2024年度　入学者数

（単位:人）

学年区分	入試区分	男	女	計
G1	一般入学者選抜	0	1	1
	指定校推薦入学者選抜	0	0	0
G2	編入学者選抜	1	1	2
G3	編入学者選抜	10	6	16
	学部計	**11**	**8**	**19**
M1	一般入学者選抜	0	0	0
	内部入試	8	4	12
	小　計	8	4	12
D1	一般入学者選抜	0	0	0
	内部入試	1	0	1
	小　計	1	0	1
	大学院計	**9**	**4**	**13**
	総合計（学部・大学院）	**20**	**12**	**32**

2024年度は、神学部・神学科1年次に1名、同2年次に2名、同3年次に16名、学部としては合計19名の入学者を迎えた。なお、このうち3名は神学研修志望による入学である。全体としては献身者の数が大幅に不足している。大学としての定員充足の問題にまして、諸教会・学校に伝道者を送り出す使命を果たすために、献身者を呼び起こし、学生を受け入れる不断の努力が今後も必要である。

なお、2025年度の入学予定者が大きく減少することから、学部の編入学定員を20名から12名に削減する方向で準備することになった。

b. 高校生会、青年の集い、オープンキャンパス行事など

① 高校生会には、毎年、首都圏の諸教会から高校生が集まるが、コロナ禍にあっては新型コロナウイルスの感染拡大防止のため引き続き中止となっていた。2024年度は3月15日(土)に開催予定であったが、昨年度に続き参加者がなく、中止となった。

② 本学と発起人教会によって行われている「日本伝道を担う青年の集い」は、毎年9月に本学で開催されるが、2024年度は対面で、従来のプログラムから少し変更を加えて開催した。まず河野克也特任准教授に発題をいただいて神学生を交えたシンポジウムを行い、立食形式での昼食の後、グループごとの交わりの時を持ち、最後に藤盛勇紀牧師（富士見町教会）の説教、裵在伊牧師（代田教会）の証しによる礼拝を守った。全体で94名、内学外から54名の参加があり、そのうち5名が受験相談をした。

③ 「オープンキャンパス」は、2024 年 12 月 7 日に実施され、学外からは 19 名の参加があった。そのうち受験相談には 9 名が参加した。こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

④ 青年の集いやオープンキャンパスの終了後の受験相談は確実に受験に結びついている一方で、入学志願者への働きかけとしては時期が遅いとの指摘があったため、数年前から、より早い時期に「入試説明会」を行っている。2024 年度は 7 月 20 日に開催された。5 名の参加者（うち 1 名はオンライン）があり、4 名から受験相談を受けた。

⑤ 2013 年度より「神学生派遣プログラム」として、全国の教会やキリスト教学校に学生を派遣し、献身の喜びを語ってもらうようにしている。2024 年度は 18 名が 17 校に派遣された。

⑥ 2024 年 6 月 25 日～30 日、教文館のご厚意で、教文館において「東神大フェア」を開催した。開催中に 4 名の入試相談を受けた。

c. 広報における SNS の利用

広報委員会の主導の下、SNS 運用規程に従って、広報活動に YouTube や Instagram, LINE 等の SNS を積極的に使用すべく努めている。特に、YouTube にできるだけ学校を紹介する動画をアップロードし、また入試広報に LINE を活用するようにしている。

4．学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2019 年度に視覚障がいを持つ学生 1 名を受け入れた。この学生は日頃の授業等での配慮は必要としないが、文献を読んだり文書を作成したりすることに時間を要するため、試験の時間を延長するなどの措置を講じ、2022 年度末に大学院博士課程前期課程を修了した。また、2024 年度入学者の中に、強度の日光アレルギーを持つ者があり、入学者選抜においても入学後の授業や諸行事においても、暗幕・遮光カーテンを準備し、使用する教室等に張ることで対応している。

障害者差別解消法の施行により設置された自動ドア、エレベーターなどは、病気やけがを抱え、移動が困難な学生たちにとっても大きな助けとなっている。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015 年以来毎年 4 月に行っている神学校全学集会では、本学を構成するすべての者たちが召命共同体として自覚を持ち、使命感を明確にして共に学校生活を形作っていくための大切な機会となっている。2024 年度は、その神学校全学集会において、学習倫理・研究倫理についても扱われた。また、伝道者養成のために学問としての神学を学ぶだけでなく、生活全体を献身者として整えていけるように「生活倫理講座」を行っている。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

2024 年度は 8 月 4 日～9 月 1 日に、夏期伝道実習として各地に実習生を派遣した。実習生は、学部 4 年生 9 名、大学院修士課程 1 年生 12 名合計 21 名であった。本年度は、うち 1 名が海外の教会に派遣された。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、教会実習委員会の教員が実習生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

神学生が出席している教会の牧師と教授会との懇談会を後期始業式の後に行ってきているが、2024 年度は出欠のはがきを利用して近況報告を書いていただくと共に、9 月 18 日に懇談会を実施した。

d. 留学生との懇談会

毎年、留学生全員と教授会メンバーとで懇談会を持っている。留学生の一人一人が学びや生活の状況を話し、またあまりかかわりのない教員とも交流を持つ機会となっている。2024 年度は 2024 年 10 月 15 日に対面で実施し、留学生委員の教員と 4 名の留学生が参加した。

e. 卒業予定者の就職状況

2024 年度は、大学院修士課程前期 2 年生の修了者は 12 名、学部からの卒業者は 1 名、計 13 名が巣立っていった。大学院で学んだ 12 名のうち、3 名は他教派からお預かりした人であった。残りの 9 名はいずれも日本基督教団の教会に遣わされて行った。

５．社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国の長老会神学大学校との交換教授プログラム

2024 年度は 9 月 11 日(水)から 13 日(金)まで、神代真砂実学長が長老会神学大学校を訪問して行われた。講演と授業、チャペルでの説教を行った。

b. 学校伝道協議会

2024 年 5 月 25 日に第 25 回キリスト教学校伝道協議会を対面とオンラインで開催した。主題「キリスト教学校にとっての教会」、対面とオンライン併せて 84 名の参加（うちオンライン 18 名）があった。

c. 日本伝道フォーラムおよび東京神学大学後援会公開講演会活動

① 日本伝道フォーラムについては、対面での開催を模索したが、準備委員会の再編を行う必要があり、休止した。~~2~~2025 年度は開催する方向で準備をしている。

② 2024 年度は全国 29 地区の東京神学大学後援会が公開講演会を行い、延べ 236 教会、1003 人が参加した。2020 年度以来、新型コロナウイルスの感染拡大により講演会を行うことができずにいた地区も、徐々に再開していている。

d. 教職セミナー

2025 年 1 月 7 日～9 日、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に第 53 回教職セミナーが開催された。主題は「福音の担い手：伝道者論をめぐって」で、小泉健教授が主題講演を担当した。小泉健教授による主題講演と旧約、新約、歴史、実践の神学各分野からの発題、さらに 2 名の牧師による発題がなされ、学外の教職 77 名を迎え、学内の教職員、大学院前期課程修了予定者を合わせ、計 102 名が参加した。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、敗戦後まもなくに創設された長い伝統をもつ、信徒のためのユニークな神学講座である。毎週 2 回（月・金曜日：午後 6:00～8:00）、2021 年度からは銀座教会 5 階会議室で開催されている。各年度は 3 学期に分かれ、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史や世界宗教史、キリスト教美術やキリスト教音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶ。講師 10 名のうち 5 名が本学教員である。2 年間で全 20 講座を修了する正規生に加え、科目受講生、聴講生の制度もある。

2024 年度は定員制（30 名）とし、78 期生 3 名と新たに科目受講生 4 名を迎え、銀座教会 5 階会議室を会場に、すべての講座を対面で実施した。夜間講座担当牧師である山下泰嗣牧師（江戸川松江教会）が毎回の講座を支えてくださっている。

2023 年度からは東京神学大学を会場にして､8 月末に 1 日の夏期研修会を再開した｡2024 年度は小泉健教授（実践神学）を講師に迎え「教会の姿を追い求めて」という主題で学びと懇親の時をもった（参加者 30 名）。また、2023 年度より銀座教会にてクリスマス礼拝も再開し、2024 年度は箕口雄介牧師（三崎町教会）より説教を賜り、礼拝後には中野実学外活動委員長とも共に茶菓をいただいての交わりの機会をもった（参加者 21 名）。

なお、2024年度の修了者は、正規生6名（77期生3名、76期生1名、74期生1名）、科目受講生1名であった。

６．内部質保証（自己点検評価）にかかわること

2013年7月に本学の「内部質保証向上委員会」が設置され、本学における内部質保証体制に責任を持つことになった。2018年度にその規程等が整備され、2019年度からは、内部質保証向上委員会を中心とした内部質保証体制を実質化させた。2024年度は、2023年度に大学基準協会に提出した改善報告書に対する審査結果を踏まえ、さらに内部質保証体制を構築すべく諸規定の改正を行った。また、自己点検評価や理事会・評議員会の懇談会における提言、神学校生活懇談会、卒業時アンケート結果などを踏まえ、改善すべき課題が内部質保証向上委員会から特別教授会に報告・提言され、各部署や教授会で検討され、中期計画の策定、諸方針の整備、さらなる学修成果の公表、学修行動アンケートの実施、アセスメントポリシー（アセスメントプラン）の改定、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの整備、博士課程後期課程の制度改革、博士課程前期課程への長期履修制度導入のための規則改定等がなされた。また、教員の任用・昇進における客観的基準も2025年度中に策定する方向で進められ、さらにヒブル語必修化の検討などがなされた。

７．施設や設備に関する主たる事業について

a. 新型コロナウイルス感染防止対策

2024年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本館・図書館・学生寮の出入口にアルコール消毒液を設置している。

図書館では、2024年度は対策レベルを緩和しつつ利用者間に感染拡大が発生しないように各種の対策を続けた。対策は当館関連の各図書館協会によるガイドラインを参考にした。希望する利用者には引き続き入館時のマスク着用と手指の消毒を指導し、館内では距離を取っての利用を促した。さらに、図書館施設のみならず図書館棟全体の消毒を毎日行った。なお、コロナ禍の際に停止していた延長開館を再開した（授業実施期間）。

また、2024年度に入学した強度の日光アレルギーを持つ学生のために閲覧室のブラインドを閉め切って遮光することとし、本人に確認して図書館を常時利用できるようにした。

b. オンライン環境の活用

2020年度以来の新型コロナウイルス感染症の拡大状況下にあって、神学教育は単に知識を伝達することに留まらず、伝道者としての人格が形成されることが重要であることに鑑みて、当初、本学は完全オンライン授業とするのではなく、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業を行い、2021年度以降は原則として対面で授業を実施してきた。しかし、2024年度も、整備したオンライン環境を活用して、病気療養中の教員による授業や、

主に非常勤講師の担当する授業について本務校からの要請等やむを得ない場合に限り、Cisco Webexを利用したオンライン授業を併用すると共に、入試説明会やキリスト教学校伝道協議会は、対面での実施を主としつつ、オンラインを併用した。

オンライン授業を実施するにあたり、図書館所蔵資料などを利用する場合に「授業目的公衆送信補償金制度」を適切に運用するため、授業目的公衆送信補償金として聴講生等を含む学生総数（78名）及び公開講座等分の手当てを行った。

図書館資料に関しては、出版界における電子資料への切り替えが加速度的に進んでいることから、外部資金の積極的な活用を含めた導入と運用について引き続き検討を続けていく。

c. 本館事務室の NAS および一部 PC リプレース、OS・オフィスソフトのアップグレード

本館事務室の NAS と一部 PC を 9 月にリプレースした。また、2025 年中にサポートが切れる Windows 10 を Windows 11 に、オフィスソフトを Microsoft Office 2024 にアップグレードした。

d. SNS の活用

Instagram と LINE の利用について、昨年度に引き続き、行事や入試関連のお知らせに活用した。また、YouTube では教員紹介動画などを掲載した。

e. 主な修繕工事

① 照明器具を LED に交換した。2024 年度は、本館通路（18 箇所）および印刷室（4 箇所）を LED 化した。
② 本館 1 階東側男性トイレの小便器を交換した。
③ 100%遮光カーテンを大教室、集会室、組織神学研究室に設置した。
④ B 教室のエアコンを取替更新した。
⑤ 本館 1 階の研究室（1 室）のエアコンを取替更新した。

f. キャンパス整備事業

2019 年度に教員住宅が、2021 年度に学生寮が完成し、供用を開始している。研修センターの建設は学生数減少に伴う減収を危惧し、資金計画に目途がつくまで一旦中止とした。2024 年度もその方針を維持した。

８．主たる行事

(1) 4 月 2 日　入学式・前期始業式
式　辞：神代真砂実学長
始業講演：中　止
(2) 4 月 2 日～4 日　新入生・新編入生オリエンテーション
(3) 4 月 5 日　前期授業開始
(4) 4 月 8 日　公開夜間神学講座　開講式・神学入門　銀座教会
(5) 4 月 15 日　公開夜間神学講座 1 学期開始　銀座教会
(6) 4 月 18 日　クラス別懇談会
(7) 4 月 23 日　神学校全学集会
(8) 4 月 30 日　学位授与式　受領者：宮嵜　薫特任常勤講師
(9) 5 月 13 日～14 日　同期研修会
(10) 5 月 14 日　全学懇談会
(11) 5 月 21 日　前期学生総会
(12) 5 月 25 日　キリスト教学校伝道協議会（対面・オンライン）
主　題：「キリスト教学校にとっての教会」
(13) 5 月 31 日　運動会（雨天のため本館内で実施）
(14) 6 月 3 日～4 日　日本伝道フォーラム（未開催）
(15) 6 月 11 日　全学祈祷会
(16) 6 月 25 日　博士課程後期課程研究発表会
(17) 7 月 9 日　夏期伝道実習オリエンテーション
(18) 7 月 16 日　夏期伝道実習壮行祈祷会　説教：瀬谷　寛牧師（仙台東一番丁教会）
(19) 7 月 30 日　前期授業最終日
(20) 8 月 3 日　夏期休業開始
(21) 8 月 4 日～9 月 1 日　夏期伝道実習期間
(22) 9 月 2 日　公開夜間神学講座 ２学期開始

(23) 9月10日　大学院修士論文提出締切
(24) 9月11日～14日　韓国イエス教長老会交流　神代真砂実教授　訪韓
(25) 9月18日　後期始業式・始業講演
始業講演：「苦しみの秘義の説教学」　小泉　健教授
午後「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」
(26) 9月19日　後期授業開始
(27) 9月28日　日本伝道を担う青年の集い
(28) 10月1日　夏期伝道実習報告会
(29) 10月18日～25日　11月入学者選抜願書受付期間
(30) 11月5日～6日　　全学修養会
(31) 11月23日　11月入学者選抜実施日
(32) 11月27日　11月入学者選抜合格発表
(33) 12月3日　　日本伝道研究所主催講演会「日本における伝道の根本問題」
講演：山口陽一先生（東京基督教大学特任教授）
(34) 12月4日　　修士論文合格発表
(35) 12月7日　　オープンキャンパス
(36) 12月13日　クリスマス礼拝「御子はまことに人となってくださいました」
説教：渡邊義彦牧師（柿ノ木坂教会）
(37) 12月15日　冬期休業開始
(38) 1月7日～14日　2月入学者選抜願書受付期間
(39) 1月7日～9日　　教職セミナー　国立オリンピック記念青少年総合センター
主題「福音の担い手：伝道者論をめぐって」
主題講演「福音を生きる：伝道者の霊性」小泉　健教授
(40) 1月10日　後期授業再開
(41) 1月14日　第2回全学祈祷会
(42) 1月21日　後期学生総会
(43) 1月28日～2月4日　3月入学者選抜願書受付期間
(44) 2月5日　　後期授業最終日
(45) 2月11日～12日　2月入学者選抜実施日
(46) 2月14日　2月入学者選抜合格発表
(47) 2月28日　2024年度大学院前期課程修了者、学部卒業者発表
(48) 3月4日　　3月入学者選抜実施日
(49) 3月6日　　3月入学者選抜合格発表
(50) 3月6日　　卒業礼拝　　説教：望月　修牧師（仙台広瀬河畔教会）
(51) 3月7日　　卒業・修了式
励ましの辞：雲然俊美牧師（教団総会議長）
楠本史郎牧師（気賀教会）
(52) 3月10日　公開夜間神学講座 修了式
(53) 3月15日　高校生会（中止）